学会活動に関する意見調査

ＯＲ学会では，森口副会長を委員長とする改革第一委員会を発足させ，学会活動に関する点検を始めたが，この委員会では，会員のナマの声を集めようと，去る６月２～３日の春季研究発表会の席上，アンケート調査を行った．調査用紙の配布数の２割弱しか回答がいただけず残念であったが，回答を寄せられた方々の御意見はみな建設的なものであり，委員会としても大変参考になった．それらの中にはすぐにも実行できるものもあるので，そういった提案は可及的速やかに実施に移すよう，各関係者が努力中である．そういうアクションの報告も兼ね，ここにアンケート調査の結果をお知らせする．この調査結果を読んでのご感想やご意見など，どしどし学会宛送られるようにお願いしたい．また，この種のアンケート調査は，研究発表会等の機会に再び行なうこともあるので，その際はもっと回答が多数寄せられるように，予めお願いをしておきたい．

A．研究発表会について

（質問 1）

○今回の研究発表会をお聞きになりましたか？
はい　42，いいえ　2

○総体的な印象はいかがですか？
非常によい　2，まあよい　18，普通　15，ややわるい　3，非常にわるい　1，意見なし　1

○研究発表の形式はいかがですか？
現在のままでよい　15，改善を要す　22

研究発表会の運営について寄せられたご意見は

(1)　発表時間が短い．会場を増やしたり，類似テーマを集めたりして，場合によっては選択したりしても，１つの講演時間を長くした方がよい．

(2)　アブストラクトを詳しくすること，事前配布することを望む．

(3)　他会場の進行状況が分ると都合がよい．

(4)　OHP (over head projector)，スライド，携帯マイク等を使用し，黒板・掛図は使わないようにしたい．また，説明の要領の悪い人が多いので，学会で手引書を作ったらどうか．

(5)　討論者を予め準備し討論を活発化するとよい．

といったものであった．これらの点を検討の結果，(1)と(5)は委員会でもすでに出ていた「研究発表会に organizer 方式を取り入れることの可能性」とも併せて継続審議をすること；(2)，(3)，(4)は庶務幹事に実現の方向で検討をお願いすることになった．(4)は庶務幹事の間でもすでに話題になっており，検討が始められている点を含んでいる．

次に発表内容に触れたものに

(6)　応用例が少ない．問題意識に疑問のある発表や数式の遊戯にすぎないと思われる発表が多い．

(7)　特別講演には過去に漫談としか思えないものがあった．学会らしく内容のあるものを望む．企業でのＯＲの活用について講演してほしい．

(8)　ＯＲの根本的なあり方についての公開討論を望む．

(9)　学会が発表の評価を行なうべきではないか．

等のご意見があった．(6)については，会員諸氏，特に第一線のＯＲマンの方々に，おっくうがらずに発表して下さるようお願いしたいが，前記 organizer 方式を取入れることで，少しはこのような方向づけができないか，という点も話題に上った．(7)は当委員会でもう少し煮つめて，研究発表会の実行委員会に申し送ろうということになった．(8)も同じ．これは過去にパネル討論などの例（経営科学第７巻第３号 155 ページ参照）があるが，毎年といわなくとも，時折話題にしてよいテーマかもしれないという話になった．もう少し会員諸氏の御希望を伺いたい．(9)については，本来，学会は研究発表会の討議を通じて会員相互の批判・評価が行なわれるべきスジアイのものであり，その意味ならば当然であるが，事前に特定の委員等によって評価が行なわれる方式には，責任等のはっきりするような方法を考える必要があり，慎重に検討すべきであるとの結論になった．

B．学会誌について

（質問 2）

○学会誌はお読みですか？
英文和文とも読む　21，和文だけ読む　19，
英文だけ読む　1，どちらも読まない　3

○学会誌の内容についてはいかがですか？

	よい	まあまあ	普通	つまらない	むずかしい
経営科学	6	15	13	3	5
JORSJ	5	13	10	1	5

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

○刊行頻度についてどう思われますか？
多すぎる　0，現在のままでよい　27，少なすぎる　6，わからない　4

学会誌に関して寄せられたご意見には，

(1)　和文誌の内容として，(a)啓蒙的連載講座，(b)総合報告，(c)紹介もの，(d)実施例，(e)実務的なもの，等の掲載を望まれている．

(2)　和文誌の表紙の色を見やすくせよ．

(3)　巻の切替は歴年と同じにする方がよい．

(4)　理論と応用とを分けて発行せよ．

(5)　レジュメで本質を端的に表現するよう工夫してほしい．

等があった．(1)については刊行物委員会で報告し，委員会の検討にまつこととしたい．ただし，刊行物委員会でもこのような点は常に議論の対象になっているが，(a)については，発行間隔の点で悲観的意向が強く見送ったことがある（数年前）；(b)については過去にその経験があり，好評だったが，いつの間にか消えてしまったので，再登場が望まれているという2点をご報告しておきたい．(2)については，やはり懸案の一つであり，従来の中で比較的明るくて活字の見えやすい色をサンプルとして選び，今後，その色を守るようにしようということで，すでに手配ずみである（本号の色はいかがでしょうか）．(3)については，隔月刊ということにでもなった機会に注意しようということで当分は見送り，(4)についても，従来の紙幅では無理との意見が強かった．*Management Sience* 誌ぐらいの厚さの雑誌が毎月出せるときには当然考えられるであろう．早く，そういう学会に成長したいものである．(5)は最近改正した執筆規定には，その趣旨が盛り込まれているので，執筆者各位の御協力さえいただければ，ごく近いうちに，そのようになるはずである．

B′．その他の刊行物について

（質問 2-D）

○今後学会として，新しく本を出すということについて，ご希望がおありですか？
ある　11，ない　20

このテーマとして次のようなものがあげられた．刊行物委員会等での今後の検討事項であろう．

(1)新しい本の飜訳，(2)実用例の豊富な初歩的な本，(3)修士課程のOR教材，(4)国内のOR利用例，(6)手法の総合報告，(6)手法に関し，最新の news を織り込んだ刊行物，(7)論文集，(8)和文誌臨時特集号として啓蒙的講座．

C．研究会等各種会合について

（質問 3）

○月例研究会，講習会，懇談会等の計画を希望しますか？
する　38，しない　6

希望する内容		月例研究会	講習会	懇談会
	本部で開催	20	14	11
	各支部で開催	8	12	6

希望する内容，具体的なテーマ等について，(1)基礎理論，(2)手法ごとの最新文献のまとめの紹介，(3)手法，モデル，問題中心の総合報告風のもの，(4)ネットワーク，(5)組合せ理論，(6)シミュレーション，(7)探策理論，(8)企業にORを定着させる方法，(9)ORの失敗例，(10)ORの教育法，(11)大学と企業の交流をはかる懇談会を分野別に，(12)現実に則したテーマ，といったことがあげられた．「会合は多いほどよい」といったご意見もあり，秋頃を目標に例会の準備にかかるべく検討をはじめた．

D．学会の事務的サービスについて，その他

（質問 4）

○学会の事務的サービス全般について
満足している　23，どちらともいえない　16
不満である　3

だいたいにおいて事務サービスの評判はよいようであるが，何分にも弱小学会の悲しさで，常勤事務員の数が少なく，事務員にも，各委員，幹事等にも献身的なご努力をお願いしているのが現状である．幸い「学会活動に，もっと企業のORマンを」とのご意見を寄せられた方もあるくらいで，お願いすれば委員や幹事として活躍して下さる方がまだまだ沢山おられると当委員会では解釈して，大変心強く感じている．この他，名簿に職場別を望む方もあったが，これは索引の充実によって補えることなので，早速，実現の方向で庶務幹事に検討をお願いした．

最後にアンケート調査にご協力下さった会員諸氏に心から御礼を申し上げ，当委員会のメンバーを御紹介して，この報告を終りたい．

委員長　森口繁一（東大）
委　員　出居　茂（早大）・菅波三郎（三菱総研）・原　亨（富士通）・森村英典（東工大）・矢部真（国鉄）・若山邦紘（法大）〔50音順〕

（文責　森村）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．